

カリキュラム・教科書・アセスメントコンポーネント

ニュースレター (第9回)

カリキュラム・フレームワークの議論、再開!

去る2月17日(火)~2月19日(木)の3日間の日程で、カリキュラム・フレームワークの最終化のための会議が開催されました。昨年の9月以降、この件については全く動きが止まった状況でしたが、急遽、教育大臣の指令で開催されたようです。2月17日(火)は学者及び政策立案者を対象に、2月18日(水)午前は教員対象に、同日午後はドナーを対象に開催され、その3回の会議で出されたコメントや提案をもとに2月19日(木)に教育省内の関係者によって改訂作業会議が行われました。

JICAとしては加藤総括、田中専門家、山川専門家の3人が2月17日午後の会議に出席し、初等教育カリキュラム部分で必要な点についてはしっかりコメントをしてきました。今後は以下のように進められるようです。

- ①教育省内でカリキュラム・フレームワークを最終化
- ②最終案を教育大臣に提出、承認
- ③カリキュラム・フレームワークをもとに、各教科のカリキュラム開発開始

それぞれの作業期日についての言及はありませんでしたが、この調子でいけばカリキュラム・フレームの承認は近いかもしれません。ご参考までに、2月18日(水)午後の会議時点での教科構成と配当時間(最新案)を書き添えておきます。



2月18日時点での教科構成と配当時間(最新案)

		Grade 1			Grade 2			Grade 3			Grade 4			Grade 5		
		period per week	hours per week	hours per year	period per week	hours per week	hours per year	period per week	hours per week	hours per year	period per week	hours per week	hours per year	period per week	hours per week	hours per year
1	Myanmar Language	8	5h20	192	8	5h20	192	8	5h20	192	7	4h40	168	7	4h40	168
2	English	3	2h	72	3	2h	72	3	2h	72	5	3h20	120	5	3h20	120
3	Mathematics	7	4h40	168	7	4h40	168	7	4h40	168	6	4h40	144	6	4h40	144
4	Science	2	1h20	48	2	1h20	48	2	1h20	48	3	2h	72	3	2h	72
5	Social Studies	2	1h20	48	2	1h20	48	2	1h20	48	3	2h	72	3	2h	72
6	Physical Education	2	1h20	48	2	1h20	48	2	1h20	48	3	2h	72	3	2h	72
7	Lifeskills	2	1h20	48	2	1h20	48	2	1h20	48	3	2h	72	3	2h	72
8	Arts	2	1h20	48	2	1h20	48	2	1h20	48	2	1h20	48	2	1h20	48
9	Moral & Civics	2	1h20	48	2	1h20	48	2	1h20	48	3	2h	72	3	2h	72
	Sub-Total	30	20h	720	30	20h	720	30	20h	720	35	23h20	840	35	23h20	840
10	Local curriculum	5 periods per week, no more than 120 hours per year -Ethnic language, history and culture -Contents relevant to local economic situations -Agriculture -Basic computer skills, etc.														
11	School activities	No more than 60 hours per year														

注: 1period は 40分、年間 36週

CDT、教育副大臣と面談、確かな感触を得た模様！

去る2月4日(水) CREATEのCDT(各教科代表者1名ずつ)がネピドーの教育省で教育副大臣と面談しました。これは副大臣の「新しい教科書開発の進捗について知りたい」という強い意向のもとで実現したものです。CDTは副大臣との初の面談ということでかなり緊張していましたが、事前に教科書開発の進捗を報告するための資料を揃えたり、効果的に新しい教科書の特徴を伝えられるようにリハーサルを行ったりと準備万全の体制で当日の面談に臨みました。

その甲斐あってか、副大臣はCDTの発表内容に非常に強い関心を示されたようで、当初予想していた面談時間を大幅に上回る3時間もの時間を費やしてCDTの発表に耳を傾けられたそうです。副大臣のコメントはCDTの努力と活動を誉め、さらなる進捗を鼓舞するものだったようで、CDTにとっては大きな励みになりました。その証拠に、面談後のCDTの態度が誰の目から見てもかなり変わりました。まず、第一にCDTが自分たちの作業に非常に大きな自信をもったということが言えます。第二に現在の活動がミャンマーの国に貢献するものであるということを再認識したようで、CREATEで今後5年間一緒に活動していくための大きな動機付けになったと思われまます。これからのCDTの成長と活躍が楽しみです。

教科書開発のためのSWCセミナーの開催

去る2月9日(月)に教科別カリキュラム委員会(SWC)の座長と事務局長をCREATEに招いて、CDTと教科書開発の進捗についての意見交換を行いました。このセミナーは、教科書内容についての決定権がSWCにあることから、早い段階でSWC関係者と内容についての相互理解を深めておく必要があるとの認識から開催されました。実は、このセミナーは当初、昨年12月に行う予定でしたが、SWCの座長の予定調整が難しく2月になってしまいました。



今回のセミナーは、場所や時間的な制限からミャンマー語、英語、算数、理科、社会の5教科のみを対象とし、各教科の執務室で約2時間にわたって意見交換を行いました。全体的にはたいへん和やかな雰囲気の中で話し合いが進み、SWCの座長や事務局長から出された意見も概して建設的で、現在の進捗を高く評価するものでした。

なお、同様のSWCセミナーを2月27日(金)に上記5教科以外で開催する予定です。この報告については、次回のニュースレターでさせていただきます。

教科書表紙セミナーの開催

去る2月3日(火)教育出版の松原専門家による教科書表紙セミナーが開催されました。このセミナーは、各教科CDTにおいて、かなり内容開発が進んでいる状況に鑑み、表紙についても少しずつ検討してもらえるように期待を込めて行ったものです。セミナーでは、松原専門家とコンピュータ・オペレーター3名が、各教科の学習内容をイメージしながら、知恵を絞ってドラ



フト（第一案）を作成し、それを CDT 全員に提示しました。提示された表紙デザインは、どれもよくできており、児童の興味や関心を惹きつける力がありました。今後、この第一案をもとに、各教科 CDT で修正を加えながら最終版にしていきたいと考えています。

CREATE の看板が出来ました

CREATE の事務所のあるヤンキン教員養成校の南東門に CREATE の看板が立てられました。私自身も長らく気付かなかったのですが、今年 1 月初旬に設置されたようです。そこで、去る 2 月 11 日（水）に CREATE のナショナル・スタッフ及び現地にいる日本人専門家の集合写真を撮りました。



文責：田中義隆（カリキュラム・チームリーダー）
編集：宮原光（プロジェクト・コーディネーター）